

平成30年度 第1回学校運営協議会 議事録

1 日 時 平成30年7月2日(月) 10:00～11:30

2 場 所 同窓会館2F

3 出席者

本校同窓会会長	中尾 勝二	高田中学校校長	上村 博巨
高田小学校校長	堀部 有子	近鉄高田市駅駅長	佐々木修二
本校前PTA会長	永座 孝泰	日本大学経済学部 教授	奥田 智
大和高田市教育委員会学校教育課長	山本 剛	大和高田市市民協働推進課市民協働推進係長	小寫 俊光
本校校長	佐藤 雅之		
本校教頭(事務局)	駒沢 肇	本校事務長	堅田 輝雄
本校教務部長	奥村 健夫	本校生徒指導部長	田渕 太
本校進路指導部長	長谷川 元祥		

4 日 程

- (1) 開会挨拶 (本校校長)
- (2) 委員委嘱・任命 (奈良県教育委員会事務局)
- (3) 委員紹介
- (4) 委員長選出 本校同窓会長 中尾 勝二 氏が推挙され、承認
- (5) 委員長挨拶
- (6) 議事
 - ① 県立高田高等学校学校運営協議会会則について(本校校長提案)
 - ② 本年度学校運営に関する基本方針について(本校校長提案)
 - ③ 学習指導、生徒指導、進路指導等に関する取組について
(学習指導:本校教務部長提案 生徒指導:本校生徒指導部長提案
進路指導:本校進路指導部長提案)
 - ④ 学校創立100周年記念事業について(本校校長提案)
 - ⑤ 「地域と共にある学校づくり」に関する取組について(本校教頭提案)
 - ⑥ その他・今後の予定(事務局提案)
- (7) 指導助言 文部科学省初等中等教育局コミュニティ・スクール推進員・CSマイスター 高木 和久 氏
人権・地域教育課地域教育係 指導主事 湊 丈司 氏
- (8) 閉会挨拶



5 協議内容

- 高田小・中・高校における地域連携小中高生規範意識醸成事業に基づく児童生徒会交流、教育コースによる小学校体験実習など、これまでの取組は一定評価を得てきている。今後更に取組を進めていくために、各校種において教職員の共通理解を深め、児童・生徒会役員だけでなく広く児童生徒が参加できる活動へと改善していくことが求められる。
- 行政との連携がまだ深められていない。行政が提供するイベントやコンテンツに対して、より積極的な参加を促して欲しい。逆に、高校生が部活動や生徒会活動をとおして提供できるもので、行政が支援できることを検討し、連携を深めていきたい。
- 県内における先進実践校に比べ、比較的都市型であると考えられる「高田高校」における地域との連携を新たに考えていかなければならない。学校間、あるいは学校と他の公的機関との連携は進められているようだが、地域社会と学校との繋がり、地域の教育資源の活用という点において十分検討を重ねていく必要を感じている。
- 高田高校における総合的な学習の時間「探究」の取組は、一定の実績を積み重ねている。過去の実践事例においても地域の歴史研究者への聞き取り調査など地域へのフィールドワークが生徒の自主的な取組として進められていた。今後も双方向を意識した取組を求めたい。
- 自主自立・自由闊達の校風と文武両道の伝統を受け継いできた高田高校の取組が進学実績にも表れ、保護者・県民からの一定の評価を受けている。100周年という節目の時期を迎え、今後の学校運営の方向性を示す必要があるのではないか。保護者が、地域社会が「高田高校」に寄せる期待を受け止め、どういう教育を推し進めていくのか。そのためのカリキュラム・マネジメントが求められている。
- 高田小・中・高校の連携は年度を重ねるごとに充実・発展してきている。小学生にとって、高校生は正に憧れの的である。今後は、三つの学校が中心となって地域を盛り上げることができる取組を工夫していきたい。児童生徒が自分で考え、判断することができる活動をどう支えていけるのか。自らの問題として捉え、課題解決のために臨機応変な対応を取ることができるよう、どのように指導することができるのか検討を進めたい。
- 高田小・中・高校の連携を進める中で、授業観察交流や授業研究交流が実施できれば、教職員にとっても児童生徒にとっても新たな刺激が得られることになるのではないかと。
- 高校生の社会への貢献、社会への参画意識の向上を求める取組を地域や行政が応援できることを提案していきたい。また、高校においても、部活動の休養日の設定に伴い、休養となる時間の活用の仕方等を工夫して欲しい。
- 今後の予定について
第2回学校運営協議会 10・11月開催予定
… 学校評価計画中間評価を受けて（テーマを絞り協議を深める）